

目次

1	県政の重点施策	4
2	県の財政	6
3	県の役割と組織	8
4	県の広報広聴	10
5	あいちの産業	12
6	くらしの安心・安全	13
7	あいちの友好提携先	16
8	くらしの相談窓口	17
9	県の施設ガイド	31

本冊子をご覧ください
ありがとうございます。

今後の編集の参考とする
ためアンケートへご協力
ください（無記名でのア
ンケートです）。



本誌の表紙は、HAL名古屋 小山田 結香さんの作品です。

愛知県章



1950年、第5回国民体育大会の愛知県開催を機に一般公募され、全国からの応募作品1,600点の中から選定されました。

このマークは、「あいち」の文字を図案化し、太平洋に面した県の海外発展性を印象づけ、希望に満ちた旭日波頭(きょくじつはとう)を表しています。

あいちのシンボル

県の花

カキツバタ



在原業平朝臣が現在の知立市八橋を訪れたとき、そのあたりの花の美しさに旅情をなぐさめ、カキツバタの5字を詠み込んでうたった（伊勢物語）と伝えられています。

1954年、NHK・全日本観光連盟などの共催により、郷土の花（県の花）に選定されました。

県の木

ハナノキ



愛知県を中心とした中部地方にのみ自生するムクロジ科の落葉樹で、1966年、愛知県が県民投票により、県の木に選定しました。

北設楽郡豊根村の茶臼山山麓にある「川宇連ハナノキ自生地」は、国の天然記念物に指定されています。

県の鳥

コノハズク



愛知県の山地に夏鳥として飛来するフクロウの仲間です。鳴き声が「仏法僧」と聞こえることから、「声のブッポウソウ」の別名をもっています。

1965年、愛知県鳥獣審議会の県民投票により、県の鳥に選定されました。

県の魚

クルマエビ



クルマエビは、頭部から腹部にかけて縞模様があり、体を丸めると車輪のようになることから、この名が付けました。

1991年に南知多町で「第11回全国豊かな海づくり大会」が開催されるにあたり、1990年に県の魚に選定されました。

あいちの県民歌

1950 年、第 5 回国民体育大会の愛知県開催を機に、歌詞を一般公募するなどして制定されました。

- 1 木曾の朝曇 陽に映えて
黒潮ゆたか 虹おどる
うるわしの われらが愛知
建設の意気もあらたに
たくましき力協せて
ああ われら
我郷土 振り興さん
- 2 黄金波うつ みどり野に
湧く生産の ときの声
頼もしや われらが愛知
雲をやく 龍場のけむり
飢呼ぶ機場の歌に
ああ われら
たぐいなき 文化拓かん
- 3 光あつまる 中京は
港もまねく 船の数
弥栄の われらが愛知
いざ聖き 世界平和に
我理想高くかざして
ああ われら
大愛知 進め築かん

県民歌は愛知県の公式 Web サイト
で聴くことができます。



～われらが愛知～
作詞 若葉清成 補作 西條八十 作曲 古関裕而
力強く大きく Moderato ♩=104
き その あさぐも ひにーはえ て
く ろしほ ゆたーか にじーおどーる
う る わ し の われらがあい ち
けん せつ の いきもあらたに たく ましき ちからあわせて
あー われーら わ が きょうーど
ふるいおこさん

あいちのあらまし

■位置

日本のほぼ中央に位置し、南は太平洋に面し、西は三重県、北は岐阜県、北東は長野県、東は静岡県と接しています。

■面積

面積は約 5,170km² です。大都市圏を抱える県としては、森林や農地の割合も高く、比較的緑豊かで、ゆとりのある土地利用と言えます。

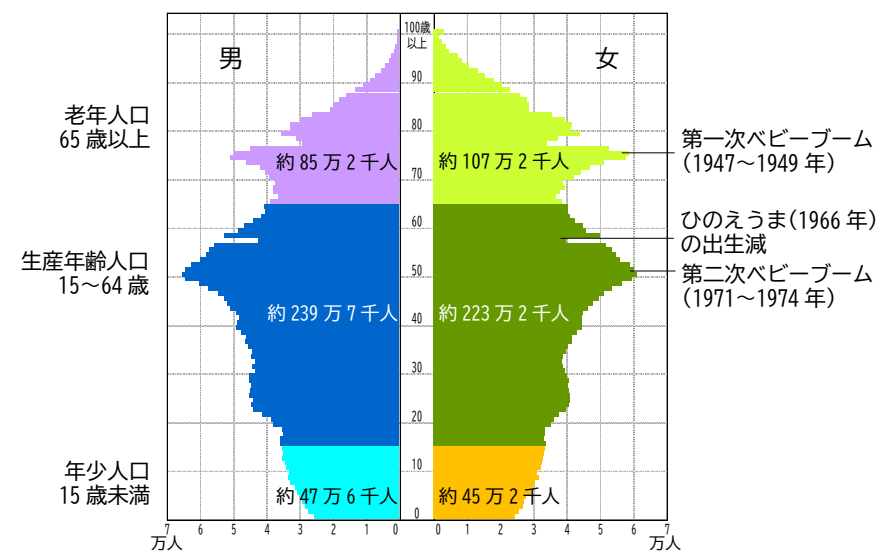
■気候

年間を通して温和で、降雨は夏季に多く、冬季に少ないです。渥美半島と知多半島南部は黒潮の影響を受けて温暖ですが、北東部の山間地域はやや冷涼で、気温の較差がかなりみられます。

■人口

748 万 897 人（2023 年 10 月 1 日現在）で、東京都、神奈川県、大阪府に次いで第 4 位です。また、県内市町村のうち、最多は名古屋市の 232 万 6,683 人、最少は豊根村の 917 人です。

愛知県の人口ピラミッド（2023 年 10 月 1 日現在）



(注) 各年齢には、あん分された年齢不詳が含まれています。

あいちのおいち

沿革

律令体制以前は、尾張（木曾川・庄内川地方）、三河（西三河の矢作川地方）、穂（東三河の豊川地方）に分かれていましたが、律令制下で尾張・三河の2国となり江戸時代まで続きました。1871年の廃藩置県で12県が置かれた後、尾張（知多郡を除く）は名古屋県、三河と尾張の知多郡は額田県となりました。その後、名古屋県は愛知県と改められ、額田県を廃して愛知県の管轄に移し、尾張・三河は愛知県として統合されました。当時は2,900を超える町村がありましたが、現在は54市町村（38市14町2村）となっています。

「あいち」の地名の由来

万葉集巻三の高市黒人の歌「桜田へ鶴鳴き渡る年魚市湯 潮干にけらし鶴鳴き渡る」に詠まれている「年魚市湯」の「あゆち」が「あいち」に転じたと言われています。廃藩置県後、県庁が愛知郡の名古屋城内に置かれたところから県名に採用されました。

愛知県庁舎の歴史

1872年11月27日に誕生した愛知県の庁舎は、名古屋城内に置かれました。その後、1874年に古渡町の東本願寺別院、1877年に南久屋町、1900年に南武平町と現名古屋市内を転々とし、1935年10月に現在の本庁舎の建設が着工され、1938年3月22日に完成しました。1964年6月に西庁舎、1970年7月に愛知県警察本部庁舎、1975年5月に議会議事堂、1985年12月に自治センター、1994年3月に愛知県警察本部北館が完成し、現在に至っています。2014年12月10日、本庁舎は隣接する名古屋市役所本庁舎とともに、国の重要文化財に指定されました。

略年表

明治	5(1872)	「愛知県」誕生	平成	元(1989)	消費税導入(3%)
	12(1879)	最初の県議員選挙			名古屋で世界デザイン博覧会開催
	19(1886)	鉄道開通(武豊～熱田間)		3(1991)	愛知で第11回全国豊かな海づくり大会開催
	22(1889)	大日本帝国憲法発布		4(1992)	愛知芸術文化センター(栄地区)開館
	24(1891)	濃尾大地震発生 県内死者2,459人		6(1994)	愛知で第49回国民体育大会(わかしゃち国体)開催
	25(1892)	県人口150万人を超える			県警察本部北館竣工
	27(1894)	日清戦争勃発		7(1995)	阪神・淡路大震災発生
	31(1898)	名古屋市内に電話開通 加入者200人			地下鉄サリン事件
	37(1904)	日露戦争勃発		10(1998)	長野で冬季オリンピック開催
	45(1912)	国際オリンピック初参加		11(1999)	県人口700万人を超える
大正	3(1914)	第1次世界大戦勃発	昭和	12(2000)	東海地方で記録的な豪雨
	9(1920)	第1回国勢調査 人口208万9,762人		14(2002)	県地方機関の再編
	12(1923)	関東大震災発生			日韓ワールドカップ開催
昭和	8(1933)	名古屋市役所(現本庁舎)完成		15(2003)	愛知で第27回全国育樹祭開催
	13(1938)	県庁(現本庁舎)完成			上飯田連絡線開業
	14(1939)	第2次世界大戦勃発		16(2004)	西名古屋港線(あおなみ線)開業
	19(1944)	東南海地震発生		17(2005)	中部国際空港・県営名古屋空港開港
	20(1945)	三河地震発生 県内死者1,961人			東部丘陵線(リニモ)開業
		終戦			愛知で2005年日本国際博覧会(愛知万博)開催
	21(1946)	日本国憲法発布		18(2006)	愛・地球博記念公園(モリコロパーク)開園
	25(1950)	愛知県章制定		22(2010)	あいちトリエンナーレ初開催
		愛知で第5回国民体育大会開催			愛知で生物多様性条約第10回締約国会議(COP10)開催
	29(1954)	名古屋テレビ塔完成		23(2011)	東日本大震災発生
	31(1956)	佐久間ダム完成		24(2012)	名古屋ウィメンズマラソン初開催
	32(1957)	地下鉄開業(名古屋～栄町間)		26(2014)	愛知で持続可能な開発のための教育(ESD)に関するユネスコ世界会議開催
	33(1958)	愛知県地方計画(第1次)策定			技能五輪・アビリンピックあいち大会2014開催
	34(1959)	伊勢湾台風発生 県内死者3,168人			県庁本庁舎・名古屋市役所本庁舎、国の重要文化財に指定
		名古屋城天守閣再建		27(2015)	入鹿池の世界かんがい施設遺産登録
	36(1961)	愛知用水完工		28(2016)	県人口750万人を超える
	39(1964)	県庁西庁舎竣工			明治用水の世界かんがい施設遺産登録
		名神高速道路開通(一宮～神戸間)		29(2017)	あいち航空ミュージアム開館
		東海道新幹線開業(東京～新大阪間)			松原用水・牟呂用水の世界かんがい施設遺産登録
		東京で第18回オリンピック開催	令和	元(2019)	愛知で第70回全国植樹祭開催
	41(1966)	県立大学・県立芸術大学設置			ラグビーワールドカップ2019日本大会開催
	42(1967)	県人口500万人を超える			あいち技能五輪・アビリンピック2019開催
	43(1968)	豊川用水完工		2(2020)	愛知で第58回技能五輪全国大会・第40回全国アビリンピック開催
	44(1969)	アポロ11号、人類初の月面着陸に成功			あいち朝日遺跡ミュージアム開館
		東名高速道路開通(東京～小牧間)		3(2021)	愛知でロボカップアジアパシフィック2021あいち開催
	45(1970)	大阪で日本万国博覧会開催		4(2022)	県政150周年
		県警察本部庁舎竣工			ジブリパーク開園(ジブリの大倉庫・青春の丘・どんどこ森)
	47(1972)	札幌で冬季オリンピック開催		5(2023)	ジブリパーク「もののけの里」開園
		沖縄返還			愛知で第61回技能五輪全国大会・第43回全国アビリンピック開催
	48(1973)	第1次石油危機		6(2024)	ジブリパーク「魔女の谷」開園
	50(1975)	県議会議事堂竣工			
		沖縄国際海洋博覧会開催			
	51(1976)	県人口600万人を超える			
	53(1978)	新東京国際空港(成田空港)開港			
	54(1979)	愛知で第30回全国植樹祭開催			
	60(1985)	県自治センター竣工			
	63(1988)	愛知環状鉄道開業(岡崎～高蔵寺間)			

あいち県民の日

1872年11月27日に、当時の愛知県（名古屋県が改称）と額田県が合併し、尾張、三河の両地域を管轄する現在の愛知県が誕生しました。

愛知県は、2022年に県政150周年を迎えたことを契機として、「あいち県民の日条例」を制定し、毎年11月27日を「あいち県民の日」と定めています。また、11月21日～27日の7日間を「あいちウィーク」とし、この期間に様々なイベントを開催します。なお、県内の公立学校の多くは、「あいちウィーク」期間中の1日を休業日としています。

■あいち県民の日条例（2022年12月23日 愛知県条例第50号）＜一部抜粋＞

県民一人一人が、愛知の歩みを振り返りつつ、愛知の魅力を再発見するとともに、次なる時代に向け新たな創造の基盤を積み重ねることで、県民がともに支え合い、希望と誇りを持つことができる愛知の実現を目指し、ここにこの条例を制定する。

第1条 県民が、地域の自然、歴史、風土、文化、産業等についての理解と関心を深め、愛知への愛着及び県民としての誇りを持つ契機とするとともに、暮らし、教育、労働、経済、環境等が調和した輝く愛知の実現を期する日として、あいち県民の日を設ける。

2 あいち県民の日は、11月27日とする。



「あいち県民の日」・「あいちウィーク」特設サイト

あいち県民の日 で検索

あいち県民福祉憲章

(1994年9月30日)

わたくしたち愛知県民は、互いに尊敬し合い、長寿を喜び合える「福祉あいち」をみんなでつくることをめざし、ここに憲章を定めます。

わたくしたちは、

- 1 健康に心がけ、生き生きとした人生をつくります。
- 1 家族のきずなを大切にし、温かい家庭をつくります。
- 1 互いに助け合い、経験や能力を活用できる社会をつくります。
- 1 安全で、安心して暮らせる街をつくります。
- 1 明日を担う子どもたちが健やかに育つ社会をつくります。

愛知県人権尊重の社会づくり条例

(2022年4月1日)

2022年4月1日「愛知県人権尊重の社会づくり条例」が施行されました。

この条例は、「あらゆる人権に関する課題の解消を図るとともに、全ての人の人権が尊重される社会の実現に寄与する」ことを目的とした包括的な人権条例です。

相互に人格と個性を尊重し合いながら支え合い、多様性を認め合う、誰一人取り残されることのない人権尊重の社会づくりを進めましょう。